令和２年度　学校評価（年度末評価）

【別紙１】

本年度の重点目標	○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善 ○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実 ○地域のセンター的機能の拡充

	重点目標	具体的方策	中間評価	評価結果と課題
総務	・職員の分かりやすい駐車方法と駐車場の整備 ・行事における保護者の本校敷地内への駐車の実施と改善	・年度始めに駐車方法のプリントを職員に配付し周知する。 ・定期的に全体又は個別に駐車の仕方について説明する。 ・駐車場の白線引きと通用門付近の看板の整備をする。 ・行事ごとに駐車方法の案に沿って実施する。 ・反省を出してもらい、次の行事又は次年度に生かす。	・年度始めに職員向けに駐車方法について説明を行った。感染症防止対策や校舎改修工事の関係で、日替わりに近い駐車方法を職員にお願いしている状況である。 ・看板等の整備は順次行っている。 ・大きな行事が中止となり、昨年度の反省を受けた計画を実施できていない。今年度、残る行事についても分散型等で実施される。また、改修工事の影響で次年度の参考となるかは分からない。	・年度始めに職員向けに実施した駐車方法についての説明では、新転任者向けに、パワーポイント資料を使用して説明できたことがよかった。また、改修工事に伴う駐車場所の変更などは、メールを有効活用し周知できたため、職員の混乱は最小限にとどめられた。 ・看板は何度か修繕を実施したが、雨風で壊れてしまった。根本的な修理を次年度は実施したい。 ・本年度は実施できなかった行事が多くあった。コロナ禍における行事の分散化を適切に計画していかなければならないと感じている。次年度に反省を生かしていきたい。
教務	・新教育課程の検証及び検討 ・新学習指導要領を基にした指導と評価の一体化を図る	・今年度から小・中学部において自立活動の時間における指導が実施されるため、実践の検証、課題や問題点の整理及び検討を行う。高等部においては、自立活動の時間における指導の実施に向けて、昨年度に検討されたことを基に試行を行う。 ・昨年度に引き続き重複障害学級の教育課程の見直し及び検討を行う。より児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成を目指す。 ・個別の指導計画（通知表）と指導要録に観点別評価の記載ができるように検討する。	・各部において自立活動の流れ図、年間指導計画を作成した。今年度からの作成になるため、記入の仕方やチェック方法等、自立活動部と連携し、検討する必要がある。実践の検証については、各部で指導体制や指導内容、活動場所の確保等の諸課題について検証を進めている。 ・小学部では、１時間目の後半から自立活動の時間における指導の試行を行っている。今後、指導体制や児童の様子等を検証し、児童の実態に応じた教育課程の編成の検討を進める。中学部では、来年度以降の教育課程編成を見据え、合わせた指導の時間数や指導内容及び自立活動の時間数等の検討を引き続き進めている。高等部では、重複障害学級において、教科別の指導（音・美・体）から自立活動への変更を見据えた試行を継続中である。また、小・中・高の系統性を考えた、重複障害学級の教育課程という観点から、各教科等を合わせた指導の時間数について検討に入った。小・中と連携を図りながら、よりよい教育課程を追究していく。 ・小学部が今年度から通知表に観点別評価を記載するため、個別の指導計画の目標設定から観点別評価の観点を記入した。年度末の通知表や指導要録への記入がスムーズにできるように職員へ学習評価の趣旨を説明し、周知していく。中学部と高等部は、来年度以降に順次実施するため、準備・検討を進めている。	・各部において自立活動の流れ図及び年間指導計画を作成した。初めての作成になるため、記入の仕方や活用方法等、自立活動部に全校研修を依頼し周知できるようにした。流れ図は、自立活動の指導目標や指導内容等を選定するツールであることを押さえた上で、今後も自立活動の指導の充実を図っていいきたい。また、実践の検証については、各部で指導体制や指導内容、活動場所の確保等の諸課題について検討できた。高等部については、来年度に全類型で自立活動の時間における指導を全面実施する。 ・小学部では、重複障害学級においても１時間目の半分を自立活動の時間における指導の試行を行った。来年度から通常の学級と同様に実施する。中学部では、教科別の指導（音楽）を各教科等を合わせた指導として指導形態を変更して実施する。高等部では、教科別の指導（音・美・体）から自立活動への変更を見据えた試行を継続して、令和４年度の実施を目指す。今後も小・中・高と連携を図りながら、よりよい教育課程を編成していく。 ・小学部では、今年度から通知表に観点別評価を記載した。来年度以降、中学部、高等部と順次記載できるようにする。教科領域会においても年間指導計画のモデル案に３観点の記入を各教科等で検討し、指導と評価の一体化が図れるようにした。
生徒指導	・安全な通学環境の整備 ・防災体制の充実 ・いじめの防止	・ＳＢ６コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・ダイヤの調整） ・自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。 ・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。 ・地域住民の方に防災訓練を参観・参加していただくなど、地域との連携を図る。 ・いじめ防止基本方針の共通理解を図る。 ・学期ごとに各学年へ実態調査を行う。高等部生徒を対象にいじめに関連したアンケートを実施する。	・新型コロナウイルス感染症対策のため、バスを増発して運行している。おおむねスムーズに運行できているが、増発が延長することとなり、添乗職員の負担軽減等の対策を考えていく必要がある。 ・定期的な登下校指導、自転車通学生に対して交通安全教室を実施した。事故に遭わないとともに事故後の対応もできるよう指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初の計画から変更をして訓練を行った。反省を踏まえ、来年度に向けてマニュアル及び訓練の整備を進める。 ・新型コロナウイルス感染症に考慮しながら地域との連携を取れるよう進めていきたい。 ・年度初めの職員会議で、いじめ防止基本方針についての周知を図った。 ・年２回、いじめに関連するアンケート調査を行い、把握に努めている。アンケートの回答によっては個別の相談を行う。	・新型コロナウイルス感染症対策のため、スクールバスを 12 コースに増発したが、おおむねスムーズに運行できた。コース、時刻表やバス停の場所を調整して、来年度も安全対策、適正運行ができるように検討を進める。 ・通学時、自転車の交通事故が２件発生した。（H30 年度４件、R1 年度２件） ・自力通学生を対象に月１回の登校時交通安全指導と学期１回の公共交通機関利用指導を行い、指導が必要な生徒には、随時登下校指導を行った。次年度も、各種交通安全教室を計画し、事故防止に努める。 ・一宮警察署より「自転車安全利用モデル校」の委嘱を受けた。来年度は一宮警察署と連携してヘルメット着用を推奨していく。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症の対策を考慮しながら、年度当初の計画から内容などを変更して訓練を行った。コロナ禍ではあったが、防災についての情報教材の充実やアクサユネスコ協会減災教育プログラムへの参加など新たな取組をすることができた。来年度も、感染症対策を踏まえた訓練やマニュアルの整備などを始めとした防災体制を整えていく。 ・職員会議で、いじめ防止基本方針を伝え、いじめ根絶に努めた。また、年２回、いじめに関するアンケート調査を行い、支援の必要な児童生徒については懇談を実施していじめ防止に努めた。いじめと認定される事案は１件あったが、担任、学年を中心に適切な初期対応をしたことで重大な事態には発展しなかった。

進路指導	・組織図的なキャリア教育の進と充実 ・地域との連携と充実 ・産業現場等における実習の充実	・進路講話会等、保護者に向けた進路情報内容の充実のため、各部の保護者の要望に沿った話題を精選し、設定する。 ・職員に対して、本校の進路指導の流れや進路指導に関しての意識、知識の向上を図る。 ・他分掌や関係諸機関との情報交換を密にし、児童生徒に対しての支援体制を強化する。 ・新体制での実習開始に向け、早期からの進路指導に向けて、実習先との連携、校内での指導の充実を図る。 ・雇用予定のある企業の新規開拓、仕事の切り出しを積極的に行い、生徒とマッチングできる職種を増やす。	・進路講話会は新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は中止。実習説明会の際に追加で話したり資料を配付したりしたが、保護者への情報提供が不十分で、担任・保護者間や職員間での共通理解ができていないこともあった。制限のある条件下でも有効的な情報発信の仕方を考えていきたい。 ・可能な限り関係機関との連絡会に参加し、情報交換を行えた。また、各市町の福祉課や相談支援員と、次年度以降の講話会や保護者への懇談会計画等の相談もでき、支援体制や協力体制を確認できた。 ・高３生徒の進路に関して大きな影響は受けていない。雇用に向けては、学校職員の新規開拓に加え、関係機関との情報交換により複数の事業所とのつながりができた。今後、中小企業からの求人も期待されるため、更なる開拓、仕事の切り出しに力を入れていきたい。	・進路講話会は新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度は中止。保護者への進路に関する情報周知は、説明会の中止や規模縮小に伴って配布資料や懇談会での説明が中心となったが、担任・保護者間や職員間での共通理解ができていないこともあった。次年度に向けての説明では、見やすさ等を考慮して例年の資料に情報を追加して配布した。 ・可能な限り関係機関との連絡会に参加し、情報交換を行った。また、各市町の福祉課や相談支援員と、次年度以降の講話会や保護者への懇談会計画等の相談もでき、支援体制や協力体制を確認できた。 ・高３生徒の進路指導に関しては、ほぼ例年と同じように進められた。雇用に向けては、学校職員の新規開拓に加え、関係機関との情報交換により複数の事業所とのつながりができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、中学部のチャレンジ体験推進事業や複数の事業所との研修会、講義等も実施できなかったが、次年度に向け、実施方法を検討し、可能な限り多くの情報提供の機会を確保できるように計画したい。
保健体育	・児童生徒の健康づくりの推進 ・安全教育の推進 ・安全環境整備	・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心としての役割を果たす。 ・緊急対応訓練を通して職員の安全意識を高め、児童生徒の健康の保持・増進を図る。 ・食物アレルギーのある児童生徒について学年・部での共通理解を図り学校生活管理指導表に基づいた対応を実施する。 ・児童生徒の健康観察を徹底し、安全・安心な学校生活が送れるようにする。 ・職員管理場所の清掃の際に安全点検も兼ねて清掃を実施し、きれいな学校づくりを目指す。	・感染防止対策の一つとして、一般的な体調不良者等と新型コロナウイルス感染の疑いがある児童生徒とを別室で対応できるよう立案し実施した。 ・緊急対応訓練に加え、新型コロナウイルス感染症対応についても職員に説明をして周知を図った。 ・学校生活管理指導表を基に学年・部での共通理解を図り、適切に対応することができた。 ・健康観察カードを個人、学級ごとに作成し健康観察カードの有効的な活用ができている。 ・掃除道具の交換をトイレ、教室でも実施し、過不足の調整が十分にできた。清掃時間に消毒作業を取り入れることで、十分な消毒を行うことができた。	・けがや体調不良者の対応と新型コロナウイルス感染症の対応とを部屋を分けることで、通常の保健室対応と感染症対応とがスムーズにできた。 ・新型コロナウイルス感染症対策で緊急時の対応についてそれぞれで研修を行い、職員の消毒作業などがスムーズにできた。また、新型コロナウイルス感染症対策として、各職員で研修を行えるように計画を立て実施できた。 ・学校生活管理指導表を基に学年・部での共通理解を図ることができ、適切に対応することができた。 ・健康観察を学級と個人とに分けて行うことで、家庭との情報共有を行うことができ、体調不良時に役立つ場面があった。保護者や職員に十分に説明を行っていたと思っていたが、伝わっていないこともあったのでしっかりと説明をしていく必要があると感じた。 ・掃除道具の不備や過不足の調整や交換がしっかりと行えた。今後トイレ工事に伴い、不必要な道具と必要な道具とが出てくるので、しっかりと把握して過不足がないようにしていきたい。
研修	・職員の専門性の向上	・現職研修の充実を図る。 ・全校研究を円滑に進める。 ・初任研の充実を図る。	・新型コロナウイルス感染症対策として新転任者研修などは、場所、人数など方法を考慮して実施した。改修工事の関係もあるので、今後予定されている研修も実施方法を工夫して行いたい。 ・各部間の状況、進度など、校務部会において係間で共通認識をもったり、部代表との情報交換を行ったりしている。部によって状況は異なるが、研究の時間を各単位で自立活動の指導の充実のために有効に使ってもらいたい。 ・臨時休業の影響で予どおりに進んでいない研修項目があるものの、指導教員や拠点校指導員と意見交換しながら必要に応じて臨機応変に対応してもらっている。また、次年度に向けて見直した方がよい点があれば、意見を伺っていく。	・校内で計画していた現職研修は、感染症対策を踏まえて場所や人数など開催方法を変更した。職員の授業参観についても同様に行った。外部講師を招いての研修は行うことができなかったが、次年度は状況に応じて対策を講じて行いたいと考えている。 ・全校研究は、学校再開が６月になったことに伴い、期間を１年延長した。各部代表と各部の状況について共有しながら進めることができた。次年度の取組方法について各部の状況を踏まえて今後検討していきたい。 ・初任研は、研修項目の見直しにより、負担が軽減されたと考えられる。また、研修内容は従来どおりを保ちつつ、内容を精選できるものもあるので、検討していく。 ・介護等体験は、感染症対策のため、体験生が児童生徒と接触しないように、作業的内容とした。校内滞在場所を限定したり、日程を短縮したりするなど変更して実施した。
視聴覚	・視聴覚機器の有効利用を推進する。 ・図書室の円滑な運営を図り、改修工事に対応する。	・視聴覚準備室や視聴覚機器を使いやすく整備する。 ・視聴覚機器の更新を進める。 ・破損した蔵書の補修を行う。 ・古い図書を廃棄して、室内のスペースを確保し、改修工事に対応する。	・有線、無線マイクなどの音響機器を購入し、行事などに対応できるようにした。今後その他の機器にもラベリングをして、使用しやすくしていきたい。 ・古い図書を廃棄して、図書室の一角に蔵書及び本棚をまとめて改修工事に備えることができた。	・音響機器を購入し、行事などに対応できるようにした。その他の機器にもラベリングをして、使用しやすくした。 ・県整備の大型モニター及び周辺機器の受け入れ準備を進めた。故障等今後予想される事態を想定して対応策を考えていきたい。 ・現在ある大型テレビの運用方法について検討していく。 ・改修工事後、どのように本棚などを配置していくかを計画した。来年度、図書室をどのように再開していくかを計画していきたい。

情報	・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上 ・情報モラル教育の充　実 ・校内情報化推進のための情報管理及び活用に関する分掌間の連携	・昨年度に導入された新ネットワーク及び新規ノートパソコン等の利用について、有効活用やトラブル等への日常的なサポートを行う。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。 ・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。 ・他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進めると共に、機器やネットワークの整備に努める。	・新転任職員のノートパソコン等の設定やプリンタも含めた機器の利用に際して、適切なサポートができた。また、在宅勤務の際の情報機器の使用に関して、セキュリティ面の対策や注意喚起を行った。 ・保護者や生徒に向けた情報モラルアンケートを実施した。アンケートの結果を保護者に紙面で配付し、家庭での協力を呼びかけた。 ・新型コロナウイルス感染症対策の臨時休業中に、動画教材のインターネット配信を行った。視聴覚部や自立活動部と連携して、迅速な対応が出来た。 ・国や県が進める「GIGA スクール構想」に係る機器やネットワークの整備に適切に対応し、職員に周知を進めていく。	・昨年度に更新された教員用ノートパソコンやネットワーク機器の利用について、情報部内で分担をして、設定や不具合への対応など、日常的なサポートができた。県教委からの通知や校内の情報化推進委員会の報告、資料の掲示等によって、職員への啓発が、随時、行えた。来年度も、より効果的な周知方法を工夫したい。 ・今年度は、感染症拡大予防のため、外部講師を招いての情報モラル講話が出来なかった。その代替として、生徒に向けた情報モラル資料を校内で作成し、学級担任や授業担当者に活用を促した。個別の支援でも、有効活用ができた。 ・タブレット端末の研究と有効利用について、今年度は、機器やネットワークの整備・維持に多くの時間をかけることになったため、十分な取組ができなかった。今年度末に、児童生徒に一人１台のタブレット端末が配備されるので、来年度の授業等で有効活用ができるよう、他分掌等と連携して、具体的に進めていく必要がある。
地域支援	・校内支援の充実 ・センター的機能の向上	・相談支援に関する専門性の向上に努め、自校児童生徒への支援につながるようにする。 ・関係機関と連携しながら、高等部生徒教育相談の充実を図る。 ・地域の小・中学校の保護者や教員を対象に、たんぽぽ相談や巡回相談、研修会等を実施する。	・学校だけでは解決が難しい問題に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用することで、専門的な支援を受けることができた。今後も担任個人だけでなく、関係職員や専門機関がチームで支援することができるような体制を整えていきたい。 ・自立支援協議会の情報交換会や、相談支援事業所の研修会に参加し、地域の関係機関との連携を深めた。 ・たんぽぽ相談は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、電話相談で対応し、夏季の出張相談のみ対面で行った。今後も感染状況に応じて方法を工夫しながら、より多くの相談に応えられるようにしたい。地域の小学校の巡回相談は、規模を縮小することはあったが、例年並みの実施を行い、障害特性に応じた支援の仕方や手立ての考え方を提案した。	・スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー(SSW)による助言を受け改善できた事例もあったが、SC、SSW の利用について職員に周知することができず、十分な活用には至らなかった。来年度は、現職研修でSC、SSW を始めとする関係機関の役割と連携について紹介し、職員と関係機関がチームで支援できる機会を増やしていきたい。また、各部コーディネーターを中心に、支援の必要な児童生徒の情報を把握し、関係機関への相談や個別支援会議の実施へつなげていきたい。 ・たんぽぽ相談は、感染症対策のため、一年間電話相談での実施となった。来年度も同様の状況が継続する場合は、オンラインでの実施等、新たな方法を検討する必要がある。 ・地域の学校の巡回相談では、相談終了後たんぽぽ相談につなげることで、保護者、学校ともに継続して支援を行うことができた。新たに一宮市の巡回相談も始まり、来年度もセンター的機能を果たせるよう研修を重ねていきたい。
自立活動	・学習指導支援の充実 ・教材・教具等の周知と有効活用	・自立活動の指導内容や支援の方法について、情報を収集、紹介することで、教職員の自立活動に対する意識を高める。 ・実態把握から目標や指導内容設定までの流れを提示し、指導計画の作成手順を共通理解できるようにする。 ・自立活動の教材・教具を研究、整理し、授業等で有効活用できるように紹介する。	・自立活動指導内容表「じかつ☆ノート」の見直しを行い、R2 年度版の制作中。H30 作成版を必要な職員に配付し、自立活動の指導の手助けとなるようにした。今後も定期的に見直しを行っていく。 ・「教材教具展 inPC」の取組として自活コーナーをつくり、各部各学年の自立活動の時間における指導の実践などを紹介できるように計画した。 ・現在、流れ図・年間指導計画の記入方法や作成手順について検討している。まとまり次第、「じかつだより」や「じかつコーナー（掲示板）」で周知していく。 ・教材・教具は、年度当初から新型コロナウイルス感染症対策のため 10 月まで貸出し禁止してきた。貸出し禁止期間中は、紹介や整理などを行っていた。10 月からは、使用前後の手洗いや必要に応じての消毒を徹底し、貸出しを行い、今後も授業に生かせるように紹介していく。	・自立活動指導内容表「じかつ☆ノート」の検討を行い、Ｒ２年度版が完成した。必要な職員に配付し、自立活動の指導の手助けとなるように活用を促していく。 ・自立活動研修会「じかつ☆ラボ」について、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止にしたが、感染症対策を行いながら実施できる方法を検討し、実施していきたい。 ・自立活動の時間における指導が始まり、流れ図や指導計画等、自立活動に関わる業務が増えると予想される。そのため、見通しをもって業務を進められるように一年間の計画表を検討し、作成していきたい。 ・時間における指導の充実や職員間の共通理解を図るために必要な手段（ケース会、研修会等）の検討が必要。内容や実施方法などの計画を進めていく。 ・「流れ図の書き方」についての全校研修を行った。研修後の反省まとめでは、研修の時期を年度当初にしてほしいという意見や、実践例をもっと知りたいという意見もあったので、今後さらに職員のニーズに応えられるように充実させていきたい。 ・教材・教具については、今年度、新型コロナウイルス感染症対策のため十分に貸し出しができなかった。今後も消毒等で感染症対策を行い、授業に活用できるよう、紹介や整理をしていく。
小学部	・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成 ・家庭と連携した安全で安心な支援体制作り	・児童の発達段階を自立活動のチェックリスト等を活用して捉え、自立活動の時間における指導の効果的な使い方を検証しながら指導を進めるとともに、学校生活全ての場面において、日常生活で身に付けたい基本的な力の育成を図る。 ・毎日の健康観察、目を離さない行動観察を継続し、体調不良やけが等の家庭への確実な情報提供や情報収集を図り、安全な支援体制を構築する。 ・児童の情報共有（障害特性や健康状態、家庭の状況等）のために、部会や学年主任者会等を有効活用する。	・自立活動のチェックリスト、流れ図を活用して自立活動の年間指導計画を作成した。指導計画を基に各学年とも時間における自立活動の指導を開始した。現在、指導の流れが定着できるように検証や改善を各学年で進めている。 ・部会、主任会、学年会等を活用し、情報共有に努めているが、情報が遅れることもあり、職員全員が意識を高めていくことが必要である。 ・日々の支援の中で体調不良やけがの確認をしっかり行い、家庭への連絡、学部、学年への情報共有に心掛けている。しかし、防げるけがが発生したり保護者への情報提供が不十分であったりした場面もあり、より注意深い見守りや支援体制の再確認、情報共有、提供が必要である。	・自立活動のチェックリスト等を活用しながら個々の実態を捉え、個に応じた支援方法を考えながら、各学年とも自立活動の時間における指導や学校生活全般の中で指導を進めた。児童に必要な支援を、それぞれの指導者が意識することでより効果的な指導を行うことができた。今後は、学年会や部会、ケース会等を活用して、より多くの職員で共通理解を図りながら支援を進められる体制を作っていけるとよい。 ・児童の情報の共有を部全体で図る意識は高まり、報告・連絡・相談が行われているが、新型コロナ感染症対策のこともあり、より気を引き締めた意識をもつ。 ・日々の児童への行動、健康観察、家庭との連携を意識して、児童の安全確保に努め、保護者への信頼を図ることができた。しかし、子どもたちの行動は日々変容していくことを考え、常に日々の細やかな配慮を怠らないようにする。

中学部	・生徒全員が「分かった」「できた」「やってみよう」と感じられる授業作り ・基本的生活習慣の育成及び社会生活を営む上で必要な基礎的な能力の向上	・生徒の実態や障害の特性を考慮した教材、教具、補助具を開発したり、環境を整えたりして生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。 ・食事、睡眠、排せつ、挨拶、衣服の着脱、身だしなみ、ルールや約束事の意識、相手を思いやる気持ち等、基本的生活習慣の育成を家庭と連携を密に図り、学校生活全般を通して指導する	・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため入学式後２か月間の休業があり、各教科及び領域ともに年間指導計画の変更を余儀なくされ、行事等も例年どおりに実施できない現状の中、生徒たちは、想定していたよりもスムーズに学校生活に順応している。様々な授業場面においてICT機器や写真・イラストを積極的に用い、「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。さらに、生徒自身が主体的に授業に参加できるように工夫していく。 ・今年度から時間における自立活動が実施され、個々の実態を的確にアセスメントし、目標や課題を明確にして、指導内容、支援方法を工夫することにより、生徒が積極的に個々の課題を意識し取り組む姿勢が見られるようになった。また、集団におけるルールや約束事を意識した学校生活を送る生徒の姿が、多く見られる。 ・連絡帳や個人懇談等を通して家庭との連携を図り、生徒の実態、支援方法などの情報を共有し基本的生活習慣の育成・定着を図っている。	・新型コロナウイルス感染症対策のため体験的な活動が少なくなったが、可能な範囲で継続的に取り入れるとともに、「分かりやすさ」に配慮したICT機器の活用に努めることができた。また、生徒が主体的に授業に参加できる授業展開の工夫も積極的に行われた。今後、感染症対策をしっかりと行うとともに生徒の変化に配慮しながら学習環境の整備を行うことが大切である。 ・今年度から導入した１限前半の時間における自立活動については、生徒個々の実態をチェックする表を使用して確実に把握し、流れ図の作成を通して生徒個々の課題を設定し職員の共通理解の基、指導を行うことができた。自身の課題を意識して積極的に活動に参加する生徒が増え、職員についても自立活動に対する重要性を認識し自己研修に努めることができた。また、自立活動が充実することで日常生活動作が向上した生徒も多く見られた。職員の更なる資質の向上が望まれる。 ・生徒の実態に配慮した日々の支援内容や支援方法について、連絡帳や個人懇談において情報の共有に努め、基本的生活習慣の育成・定着が図られた。支援がなくても行うことができる基本的な行動を増やしていくことが大切である。
高等部	・自立と社会参加を促す力の育成	・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点を踏まえて生徒一人一人の適性に合った指導を行う。 ・学校生活におけるさまざまな行事や活動を通して、基本的生活習慣の確立を図るとともに、社会生活を営む上で必要な力を身に付ける。	・今年度、A類型で学習する生徒に、試行として時間における自立活動の授業を週１時間設定した（B類型も１時間増やし3.5時間を設定）。生徒の学習上または生活上の困難を改善・克服していけるよう、自立活動の流れ図を活用して生徒の実態把握を十分に行うとともに、長期目標、短期目標を設定し、卒業後を見据えた計画的な指導となるように進めている。また、設定した目標を各教科等の指導や学校の教育活動全般の指導と密接に関連させ、効果的な指導となるような方策について模索している。 ・普段の学校生活や行事を通して、挨拶や返事、身だしなみなどの基本的生活習慣について継続的に指導を行うとともに、自己の役割や責任を果たそうという気持ち、好ましい人間関係が気付けるよう指導をしている。今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため授業や行事での活動に制限が多いが、生徒一人一人の目標を明確にして取り組むことにより課題を克服し、達成感や次の課題への意欲が引き出せるように進めている。また、自己選択・自己決定できる場面を多く設定し、主体的に社会生活を送るための基礎となる力を育むことにも力を入れている。	・今年度、試行として時間における自立活動の授業を週１時間（B類型は１時間増やし3.5時間）設定し、生徒の学習上、生活上の困難を改善・克服していけるよう指導・支援を進めてきた。一年を通して取り組んだことにより生徒にも自立活動のねらいが定着してきており、自分の課題にじっくり取り組むことで個々に成長が見られた。来年度からは教育課程に位置付けて本格実施を進めていくが、教員数の関係で一人の教員が複数の生徒を担当することになるため、卒業後を見据えて生徒一人一人の目標を明確にし、個別の指導・支援を意識して取り組むようにしていきたい。また、各教科等の指導や学校生活全般の指導との関係を深め効果的な指導・支援となるよう、学年会や部会等で生徒の指導・支援の方向性について情報交換を行い、共通理解を図るように努めていきたい。 ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が中止になったり多くの制限がある中での活動になったりしたが、感染防止対策を講じながら各教員が可能な範囲で工夫した取組を行ったことで、生徒たちに意欲的に活動に取り組む様子が見られた。来年度については、今年度の実績を踏まえてあらかじめ行事の代替案を考えたり、コロナに対応した年間計画を作成したりするなどして、感染状況に大きく左右されることなく、生徒、教員ともに見通しをもって活動に取り組めるように準備を整えていきたい。その上で、挨拶や返事、身だしなみなどの基本的生活習慣や社会生活を営む上で必要な力について継続的な指導・支援を行い、定着を図っていきたい。また、卒業後の豊かな生活を見据えて、各行事や授業場面等で自己選択・自己決定ができる力の育成にも努め、主体的に社会生活を送るための基礎を育てていきたい。

学校関係者評価を実施する主な項目	評価結果と今後の課題
笑顔のある安全・安心な学校づくり （感染症等に配慮した安全・安心な学習環境、学習保障）	・新型コロナウイルス感染症等を予防し、児童生徒が安全に学習活動を実施できるよう、「緊急時の対応について」「感染症について」の職員研修を行った。感染症について理解を深め、全職員で対応を確認しながら感染症予防に取り組んだことで、新型コロナウイルス感染症だけでなくインフルエンザの予防にもつながった。また、「校内ガイドライン」を随時確認し、感染症の状況の変化に合わせ学校医から助言をいただきながら、新しい生活様式に沿った学習活動を行った。今後も笑顔あふれる安全・安心な学校づくりができるよう、引き続き児童生徒への丁寧な健康観察を行い、感染症予防に努めていく。 ・４、５月の臨時休業中は、児童生徒が楽しみながら学べる動画教材のインターネット配信を行った。今後、県より大型モニターの整備や児童生徒に一人一台のタブレット端末の配備があり、活用の仕方について検討していく。
１２年間を見据えた、継続性・系統性を考慮した教育活動の推進（自立活動と各指導計画のつながりを意識した取組）	・自立活動の充実に向け全校研究に取り組んだ。自立活動の授業実践に生かすことのできる「自立活動のチェックリスト」や「自立活動の流れ図」について、職員研修を行い各指導計画とのつながりを確認することができた。 ・「自立活動だより」を保護者へ配付し、自立活動の内容や取り組みを知っていただくことで、将来を見据えて今取り組む課題について考えるきっかけができた。今後は、取組実践例や児童生徒の変化などを伝えながら保護者と学校で連携を図り、卒業後の姿をイメージして目標を立て授業改善に努めていく。